

テーマ：『身近な環境に働きかけ、自らが学びを実感する子どもを育てる理科学習指導』

大野城市立 大城小学校

Tel. 092-503-6332 担当者：三苫 幸男



■実践内容：

大城小学校は、県森林保全の森を有する四王寺山や市内を豊に流れる御笠川の近辺にあります。それらの恵まれた環境も活かしながら自然事象に進んで関わり、主体的に課題解決をしていくことを通して、科学的な見方や考え方に高めていくことを目指してきた。身近な環境に関するものでは、洪水があった御笠川の様子から流れる水のはたらきについて興味・関心をもたせ、校庭に流水実験装置をつくり、自らの実体験で追究していった。また、理科学習と発展的に関連させて、福岡教育大学の先生を講師に招聘し、月や星の観望会を親子で開き、実際に天体望遠鏡を覗いて月の表面や星座を確認したり、身近な大城の森に入り、植物の特徴の説明を聞き、その後植物標本を作ったりしていった。本校では、「活用」の面にやや課題があり、実験や観察結果をもとに自分の考えを明らかにさせ、交流活動を通して真理を高めていったり、身につけさせたい科学的言語を実際に行った活動と関連させながら習得させたりして学びを実感させていった。

■実践成果：

教材化の工夫の視点を持って、教材研究を行ったことで、地域や生活経験等、子どもの実態に則しており、興味・関心をもって追究させることができ、身につけさせたい資質や能力の定着につなげることができた。

また、新学習指導要領で示された新しい内容についても積極的に教材化し、「風で動くおもちゃ」「電磁石」などの単元を研究授業で公開することによって、従来との違いや配慮事項などを共通理解することができ今後の実践化に見通しをもつことができた。さらには、保護者も参加しての発展的な理科の授業を行ったことで、保護者にとっても目新しさを感じると共に、理科の学習内容の理解や本校の特色を知っていただくことができた。

■実践ポイント：

○身近な自然環境を活用したり一人ずつ実験用具を準備したり、一人ひとりの児童自らが事象にはたらきかけて追究できる学習環境の整備。また、交流活動を仕組むことで互いの学びを確認し、高め合う場の設定。